

ホテルオークラ東京

チャリティーイベント「第19回 秘蔵の名品 アートコレクション展」を開催
日仏絵画の巨匠らの作品約90点が集結

企業文化交流委員会（委員

長・清原富博 ホテルオークラ

東京社長）は、今年8月7日

から9月1日までの26日間、

ホテルオークラ東京のチャリ

ティー絵画展「第19回 秘蔵

の名品アートコレクション

展」を同ホテルの宴会場・ア

スコットホール（別館地下2

階）で開催する。

ホテルオークラ東京の創業

者・大倉喜七郎は横山大観な

ど当時の代表的な日本画家た

ちを支援し、1930年にイ

タリア・ローマで日本美術展

覧会を開催するなど美術をは

じめとする芸術への造詣が深

く、「ホテルは人々が集い、

文化・芸術が交流する場であ

る」という強い理念を抱いて



クロード・モネ 〈睡蓮〉
(アサヒビール大山崎山荘美術館蔵)



佐伯祐三 〈リュクサンブール公園〉
(田辺市立美術館蔵)

を一堂に展示する。主な出展作品は、矢崎千代二《ノートルダム》(星野画廊蔵)、モリス・ユトリロの《モンマルトルのキユステイヌ通り》(松岡美術館蔵)、アルバール・マルケ《パ

リ、ルーブル河岸》(ヤマザキマザック美術館蔵)などで、8月8、12、15、19、22、26、29日には作品の見どころや作家の生涯など今回出展された作品を解説する「ギャラリートーク」(開催時間・午後3時〜4時)が行われる。また、8月18、25日にはクイズ形式の解説書をもとに専任の学芸員と絵画や画家について学びながら展覧会場をめぐる「親子でギャラリートーク」も行われる。

いた。ホテルオークラ東京ではその思いを継承し、1994年から毎年独自のテーマのもとに80点ほどの秘蔵の名品といわれる作品を全国の企業個人所蔵家、美術館から収集し、作品を紹介する「秘蔵の名品アートコレクション展」をチャリティーイベントとして開催。純益のすべてを日本赤十字社などを通じて、社会貢献のために寄付しており、昨年の第18回まで来場者は延べ約45万人にのぼり、総寄付金額は約1億6000万円に達している。これまでの支援活動が認められ、平成25年全

国赤十字大会で「社長表彰」を受賞した。今年の「秘蔵の名品アートコレクション展」は「モネ、ユトリロ、佐伯と日仏絵画の巨匠たちーフランスの美しき街と村のなかで」をテーマに、印象派の牽引者、クロード・モネの「睡蓮」や印象派に続きフランスで活躍した佐伯祐三の名作「リュクサンブール公園」など、フランスの風光明媚な街や村を描いた日仏



「親子でギャラリートーク」会場風景